

ユニットリーダー 試行研修 指導要領

目次

オリエンテーション.....	1
A: ユニットケアを取り巻く社会的背景と展望.....	3
B: ユニットリーダーの役割.....	7
C: 高齢者とその生活の理解.....	11
C-1: 高齢者に対する全人的理解.....	11
C-2: ユニットケアの理念と特徴.....	14
C-3: ユニットケアにおける尊厳の保持と自立支援.....	18
D: ケアのマネジメント.....	22
E: ユニットのマネジメント.....	27
F: 実践課題演習.....	32

オリエンテーション

(時間 : 30 分)

- 到達目標 :
- ・ ユニットリーダー研修の目的と、研修の概要、到達目標について理解する。
 - ・ グループワークの進め方を理解する。

担当 : 研修主催者 等

(1) 本単元の目的・ねらい

- ユニットリーダー研修の目的、ユニットリーダーとして習得すべき知識及び技能研修の概要を説明し、以降の研修受講に向けた心構えをつくる。

(2) 研修体系全体における本単元の位置づけ

- 研修体系全体の流れと、到達目標を示してモチベーションを高める。
- 以降の単元で円滑にグループワークを行うための準備をする。

(3) 指導の視点

- 研修の目的、目標を理解し、受講に向けた心構えとモチベーションを高められるような働きかけをする。
- リラックスした打ち解けやすい雰囲気を作る。

(4) 進め方 (例)

次頁に示す。

オリエンテーションの進め方（例）

指導項目	概要	進め方(例)	指導方針・ポイント	教材
(導入) (5分)	<ul style="list-style-type: none"> あいさつ 事務的な連絡など 	<ul style="list-style-type: none"> 施設長からの期待や意気込み等について問いかける 	緊張をほぐし親しみやすい雰囲気をつくる。	
ユニットリーダー研修の目的 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> 研修によって育成するユニットリーダーの役割の概要 研修の目的は以下の3点 <ol style="list-style-type: none"> ①ユニットケアの理解 ②介護専門職としてのユニットケアの質管理(ケアのマネジメント)に関する知識及び技能向上 ③チームリーダーとしてのユニット運営(ユニットのマネジメント)に関する知識及び技能習得 	<ul style="list-style-type: none"> スライドによりユニットケアの特徴やユニットリーダーの役割について簡単に触れる 研修の目的①②③について説明する 	役割についてあらためて考え、理解する研修であることを伝える。 ①②③の意味の違いや関連を整理して示す。	スライド
ユニットリーダー研修の概要 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ユニットリーダー研修の構成 それぞれの概要と目的 	<ul style="list-style-type: none"> スライドにより、集合研修⇒実地研修⇒実践課題⇒集合研修の流れと目的と説明 	研修全体の見通しを持たせ、不安を取り除く。	スライド
研修の到達目標 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ユニットリーダーに求められる知識及び技能の習得 自施設において、ケアのマネジメントとユニットのマネジメントの知識及び技能を統合させた実践が展開できること 	<ul style="list-style-type: none"> スライドによりこの研修が目指すゴールを示す 知識だけではなく実践力を重視 	難しすぎる、ハードルが高すぎる印象を与えないように配慮。楽しそう、やってみたいと思わせる。	スライド
グループワークの方法 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> グループワークの目的 グループワークの進め方と役割分担、注意事項の理解 自己紹介、アイスブレイクと役割分担の決め方の確認 	<ul style="list-style-type: none"> グループワークについて説明 グループ内で自己紹介と役割についての相談 	模擬的なグループワークを経験し、グループワークに慣れる。 緊張を緩和する。	スライド 模擬ワークシート

A：ユニットケアを取り巻く社会的背景と展望

(形式：講義) (時間：45分)

テキスト P1～P22

到達目標：

- ・ ユニットケアを取り巻く社会状況の変化と、高齢者保健福祉政策の変遷について確認し、ユニットケアが制度化された経緯を理解する。
- ・ 介護ニーズの増大と高齢者介護施設に求められる役割（医療ニーズ、認知症、看取り、重度化への対応）について理解する。
- ・ 地域包括ケアシステムの中で施設が果たすべき役割について理解する。
- ・ 多様化する介護ニーズに対応するため、介護の質を高めていく必要があることを理解する。
- ・ 介護人材の担う役割の重要性について理解し、モチベーションを高め、ユニットケアチーム全体の意識を高めることができる。

講師要件：講義内容に関する有識者(行政担当者等)

(1) 本単元の目的・ねらい

- ユニットケアを取り巻く社会的背景やその変化を踏まえ、高齢者介護施設や介護人材に求められる役割について理解する。

(2) 研修体系全体における本単元の位置づけ

- 現在とこれから向かうであろう高齢社会全体の理解をする。
- 施設のあり方や役割を再確認し、これから続くユニットリーダーのマネジメント力養成の基礎知識とする。

(3) 指導の視点

- レジメに添い、わかりやすく説明する。

(4) 研修の進め方（例）

指導項目	概要	小項目	指導内容 キーワード	進め方	指導方針・ ポイント	テキスト 該当 ページ	教材	備考
(導入) (5分)	・学習の目的、目標の確認	---	---	・本章のねらいと学習項目について説明する		P1	テキスト	
ユニットケアを取り巻く社会状況の変化 (10分)	・家族だけで要介護高齢者を支えることが困難になっていった社会的背景を理解する	高齢化の進展と介護ニーズの増大	・要介護高齢者の増加	・スライドに基づき、高齢化の進展と介護ニーズの増大について解説する	・介護が社会的な問題であることを認識させる ・介護を担う施設・人材の必要性について理解させる	P2	スライド	
		要介護高齢者を支えてきた家族をめぐる状況の変化	・1人暮らし高齢者の増加 ・老々介護 ・介護離職・仕事と介護の両立	・スライドに基づき、家族をめぐる変化とそれに伴う介護の問題について解説する		P5	スライド	
社会保障制度と政策 (10分)	・介護保険およびユニットケアが制度化された経緯について理解する ・高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援を目的とした「地域包括ケアシステム」の推進が図られていることを理解する	介護保険制度の趣旨と概要	・介護保険制度 ・ユニットケアの制度化	・スライドに基づき、高齢者保健福祉政策の変遷と介護保険制度導入の経緯、ユニットケア制度化の背景について解説する	・介護保険制度を機にこれまで貧民救済政策として位置付けられていた福祉が利用者の「権利」に変わったことを理解させる ・高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援という理念のもと各種施策が行われていることを説明する	P7	スライド	
		地域包括ケアシステムの構築	・地域包括ケアシステム	・スライドに基づき、地域包括ケアシステム導入の背景と概念について解説する		P9	スライド	
		その他の主要な政策	・認知症 ・高齢者虐待	・スライドに基づき、高齢者虐待防止に関する政策、認知症対策について解説する		P10	スライド	
高齢者介護施設に求められる役割 (10分)	・高齢者介護施設に求められる役割として、医療ニーズ、認知症、看取り、重度化への対応と医療との連携の必要性について理解する ・地域包括ケアシステムの中で求められる地域福祉の拠点としての役割について理解する	施設の重度化と今後高齢者介護施設に求められる役割	・重度化 ・医療ニーズ ・認知症 ・看取り	・スライドに基づき、重度化への対応等今後施設に求められる機能、役割について解説する	・地域包括ケアシステムの中で果たすべき施設の役割、機能について理解させる	P14	スライド	
		地域包括ケアシステムにおける施設の位置付けと地域との連携・交流の重要性	・地域福祉の拠点 ・終の棲家 ・地域との連携・交流	・スライドに基づき、地域包括ケアシステムにおける施設の位置づけと、それを踏まえた地域との連携・交流の重要性について解説する		P15	スライド	
介護人材の担う役割 (5分)	・介護の重度化や認知症高齢者の増加など、より専門性を必要とするケアの提供が求められていることを理解する	専門性を有する介護人材の役割の重要性	・介護の質 ・介護人材の構造転換	・スライドに基づき、2025年に向けた介護人材の構造転換と具体的な施策について解説する ・知識や技術のスキルアップを図り、	・介護人材の担う役割の重要性について理解させる	P18	スライド	

指導項目	概要	小項目	指導内容 キーワード	進め方	指導方針・ ポイント	テキスト 該当 ページ	教材	備考
	・知識や技術のスキルアップを図り、 介護の質を上げていく必要があるこ とを理解する			介護の質を上げていく必要性につ いて解説する				
まとめ 振り返り (5分)	・学習内容の確認	---		・ 本章のまとめ	・介護人材の重要性に ついて再認識させ、モ チベーションを高める	---	スライド	

(5) 評価ポイント

➤ 本課目修了時の評価ポイントを以下に示す。

- 高齢化社会に向かう現状を理解し、ユニットケアにおける現状と課題を文章化できる。
- 介護保険制度や地域包括ケアについて理解し、ユニットケアの役割について文章化できる。
- 高齢者施設の役割と担う人材の理解について理解し、自施設ユニットにおける人材についての問題点を明確化することができる。

B：ユニットリーダーの役割

(形式：講義＋動画視聴＋演習) (時間：90分)

テキスト P23～P48

到達目標：

- ・ 組織のマネジメントの基礎となる知識及び技能について理解する。
- ・ チームケア及び多職種との協働の中で、ユニットリーダーに求められる役割、職務、能力について理解する。
- ・ リーダーシップに必要な知識及び技能について理解する。

講師要件：講義内容に関する有識者(リーダー・マネジメント論、管理学の学識者等)

(1) 本単元の目的・ねらい

- 施設におけるユニットリーダーの役割について理解する。
- ユニットリーダーとして必要なマネジメントとリーダーシップの理論を理解する。

(2) 研修体系全体における本単元の位置づけ

- ユニットケアにおけるユニットリーダーの役割と意義を明確にする。
- マネジメント論およびリーダーシップ論についての基礎知識を習得する。
- ユニット運営の中心的役割を担うなど組織運営および関連法令について学習する。
- キャリア形成や人材育成の過程を理解する。

(3) 指導の視点

- マネジメントの概念について示すとともに、継続的に業務を改善していく方法論（PDCAサイクル）について説明する。
- 個別ケアの実践とユニットリーダーの役割について説明する。
- ケアのマネジメント、ユニットのマネジメントに対する理解を浸透させる。
- リーダーシップ論について説明するとともに、ユニットリーダーとして必要なリーダーシップのあり方を説明する。
- キャリアパスにおけるユニットリーダーの位置づけと人材育成の重要性を示す。

(4) 研修の進め方 (例)

指導項目	概要	小項目	指導内容 キーワード	進め方	指導方針・ ポイント	テキスト 該当 ページ	教材	備考
(導入) (5分)	・ 学習の目的、目標の確認	---	---	・ 本章のねらいと学習項目について説明する		P23	テキスト	
組織の マネジ メント (15分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ユニットリーダーは、入居者に提供されるケアのマネジメントと、ユニット運営のためのマネジメントを行う役割を担っていることを理解する ・ 継続的にマネジメントの改善を図るための PDCA サイクルの考え方について理解する 	組織化と理念の共有	<ul style="list-style-type: none"> ・ 組織化 ・ 理念・展望・信条 ・ マネジメント 	・ スライドに基づき、マネジメントの基礎や、組織体制や権限、資源の最大化について説明する	<ul style="list-style-type: none"> ・ ユニットリーダーのマネジメントの範囲を理解させる ・ マネジメントの改善を図るためのツールとして PDCA サイクルの考え方があることを理解させる 	P24	スライド	
		組織図と施設マネジメント(組織階層と職務)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 組織図 ・ 多職種間の連携 	・ スライドに基づき、組織図を作ることの意義、他職種の役割を理解することの意義を伝える		P25	スライド	
		権限の委譲、報告によるフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・ マネジメントの権限移譲 	・ スライドに基づき、権限移譲の考え方とユニットリーダーの権限について説明する		P27	スライド	
		マネジメントの対象	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人的資源・物的資源・財的資源・情報の活用 	・ スライドに基づき、ユニットリーダーのマネジメントの対象について説明する		P28	スライド	
		PDCAサイクル	<ul style="list-style-type: none"> ・ マネジメントの改善 ・ PDCAサイクル 	・ スライドに基づき、継続的な組織改善を促す仕組み(PDCA サイクル)について説明する		P30	スライド	
ユニット リーダー の役割 (20分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ユニットリーダーは、少人数によるサービス提供体制のもと、継続性をもって入居者一人ひとりに即した個別ケアを提供していく上で重要な役割を果たすことを理解する ・ ケアのマネジメント、ユニットのマネジメントにおいてユニットリーダーが担うべき役割について理解する 	ユニットリーダー配置の意義	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別ケアの実践 ・ ケアの継続性 	・ スライドに基づき、個別ケアの実践とユニットリーダーの役割を具体的に示す	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別ケアを実践するためにユニットリーダーが果たす役割の大きさを再認識させ、モチベーションを高める ・ ユニットリーダーの役割、機能、権限を明確化することで自身に不足している要素を認識させ、研修への参加意欲の向上を図る 	P33	スライド	
		運営基準で規定されているユニットリーダーの配置と役割	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運営基準 	・ ユニットリーダーの配置と基準が運営基準に規定されていることを理解し、ユニットケアの中心的役割を担うことを解説する		P34	スライド	
		実践／相談／調整／倫理的問題への対応／教育／介護の研究・事例検討	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実践・相談・調整・倫理的問題への対応・教育・介護の研究・事例検討 	・ スライドに基づき、ユニットリーダーが担う各役割について解説する		P35	スライド	
		チームケアと多職種協働	<ul style="list-style-type: none"> ・ チームケア ・ 多職種連携 	・ スライドに基づき、チームケア、多職種連携の必要性について説明する		P37	スライド	
		ユニットケアの質管理(ケアのマネジメント)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ケアのマネジメント 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スライドに基づき、以下の項目について解説する ・ 理念及び人権・尊厳ある暮らし ・ ケアの視点(自律支援、自己決定、生活の継続、身体拘束他) ・ PDCA サイクルについて 		P38	スライド	

指導項目	概要	小項目	指導内容 キーワード	進め方	指導方針・ ポイント	テキスト 該当 ページ	教材	備考
				<ul style="list-style-type: none"> ・ 教務の確認 ・ 職員の把握 				
		ユニット運営(ユニットのマネジメント)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ユニットのマネジメント 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スライドに基づき、以下の項目について解説する ・ 具体的な業務を通してその役割の確認 ・ 業務管理 ・ 人材育成 ・ 資源の活用 ・ 情報の共有 ・ 介護専門職としての成長(知識・技術等) 		P38	スライド	
リーダーシップの基礎とリーダーの機能(40分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ユニットという組織をマネジメントする上で、リーダーシップが求められることを理解する ・ リーダーシップ理論の変遷を学び、現代のリーダーに求められるあり方を考える 	リーダーシップとは	<ul style="list-style-type: none"> ・ リーダーシップ ・ フォロワーシップ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループワーク(20分)を実施し、以下の点について議論させる ・ 理想的なユニットリーダー像とは ・ ユニットリーダーに必要な素養とは 	<ul style="list-style-type: none"> ・ リーダーシップ理論について理解を深め、リーダーとしての考え方を整理させる 	P39	ワークシート	
		リーダーシップに関する理論	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行動論 ・ 条件適用理論 ・ 変革論 ・ U理論 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スライドに基づき、リーダーシップとは何かについて解説する 		P39	スライド	
			<ul style="list-style-type: none"> ・ 行動論 ・ 条件適用理論 ・ 変革論 ・ U理論 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スライドに基づき、リーダーシップ理論の変遷と、現代のリーダーシップの考え方を解説する ・ ユニットリーダーとして参考になる考え方を示す 		P39	スライド	
キャリアとキャリア形成(5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ユニットリーダーが介護専門職としてキャリア形成をしていくことの重要性について理解する 	キャリアとキャリア形成	<ul style="list-style-type: none"> ・ キャリア ・ スキル 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スライドに基づき、キャリアとは何かを解説する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ユニットリーダーが自己研鑽する姿や、自身が歩んできた過程をユニットメンバーに伝えることの重要性を伝える 	P43	スライド	
		日々の業務の中での成長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経験学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スライドに基づき、経験学習の考え方について解説する 		P43	スライド	
		介護専門職としての成長	<ul style="list-style-type: none"> ・ キャリア形成モデル 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スライドに基づき、キャリア形成モデルを示しながらユニットリーダーがキャリア形成を図ることの意義について解説する 		P44	スライド	
		施設におけるキャリアパス	<ul style="list-style-type: none"> ・ キャリアパス 	<ul style="list-style-type: none"> ・ キャリアパスにおけるユニットリーダーの位置づけと人材育成の重要性について説明する 		P47	スライド	
まとめ振り返り(5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習内容の確認 	---			<ul style="list-style-type: none"> ・ ユニットリーダーの意義と重要性を理解させ、以降の研修への参加意欲を高める 	---	スライド	

(5) 評価ポイント

➤ 本課目修了時の評価ポイントを以下に示す。

- リーダーシップを理解し実務に生かせるヒントとなったか
- ユニットリーダーの役割を具体的に理解できたか
(ユニットのマネジメント及びケアのマネジメント、キャリア形成)
- 組織運営を理解できたか (チームケア、多職種連携による生活支援)

<参考：ワークシート>

演習 1)

GWを行う。

グループ内で理想的なユニットリーダー像と自身の現状 (理想にどの程度近づいているか、理想に至らない要因、課題等) について意見交換を行う。また、意見交換を踏まえ、ユニットリーダーに必要な要素とは何かを整理してグループごとに発表する。

【ワークのねらい】

- ・研修前に漠然と抱いていたユニットリーダー像を明文化させることで、本研修で学ぶべきポイントを再認識させる。

C：高齢者とその生活の理解

C-1：高齢者に対する全人的理解

(形式：講義) (時間：60分)

テキスト P49～P65

到達目標：

- ・ C-1では自施設のユニットにおける専門職の育成及びより良い支援につなげるために以下の点について学ぶ。
- ・ 入居者を、身体的・精神的・社会的に統合された存在として、あらゆる側面から理解し、その個別性、多様性に対応することの重要性を理解する。
- ・ 生活を、自然・社会・文化的環境とのダイナミックな相互作用等の観点から理解し、自施設のユニットの入居者への支援内容の改善、専門職育成のための教育的取組を実践できる。
- ・ 高齢期の発達課題や加齢に伴う心身の変化について学び、自施設ユニットの入居者への理解をさらに深め、そのような視点に立ったケアをユニットで実践するための知識を得る。

講師要件：高齢者の生活や特徴を理解しており、ユニットケアを実践している施設の施設長等

(1) 本単元の目的・ねらい

- 介護職員として備えるべき「人」「環境」「生活」についての理解を深める。
- 人の発達過程についての理解を深める。
- 高齢期というライフステージの意味を理解する。

(2) 研修体系全体における本単元の位置づけ

- 個別ケアを実践するために必要な入居者の状況を全人的に捉える視点を養う。

(3) 指導の視点

- 「人」の捉え方について解説する。特に、高齢者に対する全人的理解とその重要性について説明する。
- 環境の捉え方について解説する。入居者を取り巻く環境の定義を説明する。環境については、人と環境の関係性を一体的なものとして捉える視点を育成する。環境とは自然環境のみならず、社会的環境、文化的環境など多面的な意味を含むことを説明する。その上で、施設における環境（人的環境、物理的環境、運営環境）について説明する。
- 高齢者が歩んできた時代背景やその人の生活史について理解する。
- 人の発達過程について解説し、高齢期というライフステージの意味について説明する。人生という時間軸上における「人」を理解する方法について解説する。一人ひとりの入居者の生活史を振り返り、日々のケアに活かしていく方法について説明する。

(4) 研修の進め方 (例)

指導項目	概要	小項目	指導内容 キーワード	進め方	指導方針・ ポイント	テキスト 該当 ページ	教材	備考
(導入) (5分)	・ 学習の目的、目標の確認	---	・ 入居者の理解 ・ 高齢期の特徴 と個別性	・ 一人一人が異なることの例をあげる	・ 一人一人を理解することの 重要性に気付かせる	P49	なし	
高齢者に対 する全人的 理解 (10分)	・ 「人」に対する理解を深める。 全人的理解という観点から高 齢期における人について学ぶ	高齢者に対する全 人的理解	・ 全人的理解	・ 入居者 A さんの人物像を紹介 ・ スライドに基づいて全人的理解の概 念を説明する	・ 一人の人間を理解する視 点を確認する ・ 言葉の概念を A さんという 例によって具体亭にイメー ジできるようにする	P50	スライド 事例A	
		高齢者の個別性と 多様性の理解	・ 個別性と多様 性への対応の 重要性	・ スライドに基づいて個別性と多様性 の概念を説明する ・ ICF の考え方について説明する		P51	スライド 事例A	
入居者を取り 巻く環境・生 活の理解 (15分)	・ 「環境」の概念について理解す る ・ 高齢者施設における環境につ いて理解する ・ 高齢者が歩んできたこれまでの 歴史について学ぶ ・ 一人ひとりの高齢者の生活史 を把握する方法を学ぶ	生活における自 然、社会、文化的 環境	・ 自然環境 ・ 社会環境 ・ 文化的環境	・ スライドを用いて環境の意味につ いて説明する ・ 人を取り巻く環境を図示し、環境の 多様性について説明する	・ その人を知るためには生 活を取り巻く環境と生活 史、時代背景を理解するこ とが必要であることを理解 する ・ 言葉の概念を A さんの例 によって具体亭にイメージ できるようにする	P54	スライド 事例A	
		生活歴と時代背景	・ 生活歴(ライフ ヒストリー) ・ 時代背景	・ スライドを用いて高齢者が営んでき た時代背景、その人の生活歴・生活 史を捉える視点を説明する		P55	スライド 事例A	
高齢期の理 解 (15分)	・ 発達過程についての理解を深 め高齢期という発達段階にお ける課題について学ぶ ・ 加齢に伴う身体の変化につ いて理解する ・ 人生の最終段階との高齢期の 位置づけについて学ぶ	各ライフステージに おける生理的・心 理的・社会的特徴	・ ライフステージ ・ 高齢期の身体 的特徴 ・ 発達段階と課 題	・ スライドを用いてライフステージご との心身の特徴を概観 ・ (高齢期の身体的特徴を確認) ・ 発達段階と課題の捉え方を示し、例 を挙げて課題を理解した上での支援 の必要性を示す	・ 個性を理解する上で、高齢 期の特徴の理解が必要で あることを示す ・ 高齢期の特徴や課題の理 解に基づいて生活を支援 することの必要性を示す ・ 人生の最終段階を支える ときに必要な視点を示す	P57	スライド 事例A	
		人生の最終段階	・ 「統合」の支援 ・ Total Pain(全 人的苦痛)の理 解	・ スライドを用いて「統合」を支援す ること重要性と方法を示す ・ 「全人的苦痛」の概念を説明し、それ を取り除くことの支援としてできるこ とは何かを考えさせる		P65	スライド 事例A	
まとめ 振り返り (15分)	・ 学習内容の確認	---		①課題と手順を説明する ②個人ワーク ③グループワーク ④発表・意見交換 ⑤要点について解説する	・ 入居者 B さんの事例を用 いて学習内容を確認 ・ 他の受講者の視点から学 ぶ ・ 実践に活かすこと意識 付け	---	スライド 事例B ワーク シート1	

(5) 評価ポイント

➤ 本課目修了時の評価ポイントを以下に示す。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> ひと、環境、生活に対する理解が深められたか。<input type="checkbox"/> 個々の入居者の理解の必要性、理解の方法を確認し、自施設ユニットチームにおいてユニット入居者への理解を深めることができる。 |
|---|

<参考：ワークシート>

演習 1)

GWを行う。

模造紙を自然環境・社会的環境・文化的環境に分け、ポストイットで思う事を書き貼ってもらう。

【ワークのねらい】

- ・自己の入居者理解について、視点の偏りがいないか確認する。
- ・自職場の職員の入居者理解について、偏りがいないかどうか思い返すことで、職場の教育的取組の案等について考えられる。

C-2：ユニットケアの理念と特徴

(形式：講義) (時間：90分)

テキスト P66～P82

到達目標：

- ・ ユニットケアの理念について確認し、ユニットにおける個別ケアが実践できる。
- ・ ユニットケアの仕組みである生活単位と介護単位の小規模化、そして、それらの一致について確認し、ユニット内での研修、教育的取組に反映できる。
- ・ ユニットケアにおける個別ケアの実践方法、個室や共用空間の役割について確認し、自施設ユニットの問題解決、質の向上にあたることができる。
- ・ 快適で安心・安全な空間のしつらえについて確認し、自施設の問題点の発見、改善策について具体的に述べるができる。

講師要件：講義内容に関する有識者(建築学の学識者等)

(1) 本単元の目的・ねらい

- ユニットケアの理念について理解する。
- 個別ケアを実践する手法としてのユニットケアの仕組みについて理解する。
- 個室およびユニット空間の理論を理解する。
- 安全・安心できる空間のしつらえについて理解する。

(2) 研修体系全体における本単元の位置づけ

- ユニットリーダーの役割を理解した上でユニットケアを実践する方法について学ぶ。
- ユニットケアの理念や仕組みについて学ぶ。特にユニットケアの理論背景となっている生活単位や介護単位の考え方を理解する。
- ユニットケアが個別ケアを実践する一つの手法であることを理解する。
- 個室とユニット型（小規模な生活単位型）空間の考え方について学ぶ。

(3) 指導の視点

- ユニットケアは個別ケアを実践する一つの方法であることを説明する。
- ユニットケアおよび個別ケアでは、一人ひとりの入居者が「ごく普通の生活」を行えるよう支援することが目標になっていること説明する。
- ユニットケアの仕組みとしての生活単位と介護単位の小規模化について説明する。生活単位と介護単位を一体化させることでより、個別ケアが行いやすくなることを説明する。
- 個室の必要性をプライバシーの確保およびテリトリーの形成から説明する。
- 住宅スケールの空間構成、なじみの人間関係、残存機能の活用などユニット空間の効果について解説する。
- 入居者が快適、かつ、安心・安全に生活できる空間や福祉用具のあり方について解説する。

(4) 研修の進め方(例)

指導項目	概要	小項目	指導内容 キーワード	進め方	指導方針・ ポイント	テキスト 該当 ページ	教材	備考
(導入) (5分)	・ 学習の目的、目標の確認	---	・ ユニットケアの理念 ・ 個別ケア	・ 受講生が理解している「ユニットケア」の理念や特徴を挙げる	・ あらためてユニットケアの基本を確認することの意識付け	P66	なし	
ユニットケアの理念 (15分)	・ 「ごく普通の暮らし」を支援するというユニットケアの理念を理解する ・ ユニットケアは個別ケアを実践する一つの仕組みであることを理解する	---	・ 個別ケア ・ その人らしい生活 ・ 住宅における生活との継続性	・ スライドを用いてユニットケアの理念について説明する。 ・ 運営基準 33 条の確認	・ ユニットケアの理念の理解を徹底させる ・ ユニットケアが目指す、施設を暮らしの継続の場にするための意義と介護論を一致させる	P67	スライド	
ユニットケアの仕組み (15分)	・ ユニットケアの基礎理論である生活単位の小規模化と介護単位の小規模化について理解する ・ 生活単位と介護単位の一致により「なじみの関係性」が構築されることを理解する	生活単位と介護単位の一致	・ 生活単位 ・ 介護単位 ・ なじみの関係性	・ スライドを用いて理論的にユニットケアの仕組みについて説明する ・ 生活単位と介護単位の一致の理論とそれに基づく運営の効果を説明する	・ 生活単位と介護単位を一致させることの利点、意義を理解させる	P68	スライド	
		介護単位と情報の関係	・ 小規模な介護単位 ・ 入居者の情報の把握					
ケアと空間の融合(20分)	・ 個室の役割について理解する ・ ユニット型空間の考え方について理解する	生活の場としての施設環境	・ 住宅に近い居住環境	・ PPTによる講義形式の解説 ・ 個室やユニット型空間についての映像を通して理解してもらおう ・ ユニット型施設計画ガイドラインに示されている基準をもとに説明し、建物の理論を理解する	・ ユニットケアの理念や仕組みを踏まえて、ユニットのハード面の特徴とその利点を理解させる	P71	スライド 写真	
		個室の役割	・ プライバシー ・ テリトリー					
		空間の機能と共用する集団の規模	・ 段階的の空間構成論 ・ ユニットケアにおける空間構成					
		ユニット型施設の設定に関する基準	・ 居室 ・ 共同生活室					
安心・快適な環境づくり (15分)	・ 住まいとしての空間スケール、空間のしつらえについて学ぶ ・ 自立支援と職員の負担軽減のための生活環境の整備としての福祉用具の活用について学ぶ	住まいとしてのしつらえ	・ スケール感 ・ 居場所 ・ 寸法	・ 住まいとしてのしつらえについて基本となる考え方を説明し、写真により多様な事例を紹介する	・ 空間のしつらえ方についてのイメージを養う。(良し悪しの判断の押しつけではなく、多様な方法があることを示す) ・ 福祉用具の効果的な利用の必要性と活用イメージを伝える	P78	スライド 写真	
		福祉用具の活用	・ 自立を支援する用具 ・ 職員を守る用具	・ 福祉用具を活用することが自立支援につながることを、代表的な活用方法を説明する		P79	スライド 写真・動画	

指導項目	概要	小項目	指導内容 キーワード	進め方	指導方針・ ポイント	テキスト 該当 ページ	教材	備考
まとめ 振り返り (20分)	・ 学習内容の確認	---	---	<ul style="list-style-type: none"> ①課題と手順を説明する ②個人ワーク ③グループワーク ④発表・意見交換 ⑤要点について解説する 	<ul style="list-style-type: none"> ・「導入」における受講生の認識への解答、総括 ・ユニットケアの理念と特徴とハードの特徴との関係を理解させる 	---	スライド 事例B ワーク シート1	

(5) 評価ポイント

➤ 本課目修了時の評価ポイントを以下に示す。

- ユニットケアの理念についての理解できたか
- 個別ケアを実践するためのユニットケアの仕組みについて理解できたか
- 個室とユニット型空間についての理論を理解できたか
- 住まいとしてのしつらえや福祉用具についての理解ができたか

<参考：ワークシート>

演習 1)

GWを行う。

- ・ 動画から、入居者に対するケアのあり方を導き出す
- ・ ケアのあり方と整備基準の 33 条の解釈を導き出す

【ワークのねらい】

- ・ ケアのあり方と 33 条の示す基準を一致させ、ユニットケアの目指すことを利用者本位の視点で理解する。

C-3：ユニットケアにおける尊厳の保持と自立支援

(形式：講義および演習、グループワーク) (時間：90分)

テキスト P83～P105

到達目標：

- ・ 入居者に対する尊厳の保持について再確認し、ユニットチームにおける入居者への適切な対応について振り返ることができる。または、検証、改善策をたてることができる。
- ・ ユニットリーダーとして必要な倫理的問題について確認し、入居者やその家族の不安に配慮できる。
- ・ または、入居者やその家族に対し、倫理的配慮についての適切な説明ができる。
- ・ 個別ケアの考え方とその人らしい生活を継続するための支援のあり方、自立支援および自律支援の考え方について確認し、それ等に必要なユニットにおける業務の改善、研修について考えることができる。
- ・ 家族や地域住民との協同の仕組みについて理解し、家族や地域住民との交流の方法について具体的な実践方法を述べることができる。

講師要件：講義内容に関する有識者及びファシリテーター能力のある者(豊富な現場経験を有するユニットケア施設管理者等)

(1) 本単元の目的・ねらい

- ユニットケアにおける個別ケアの実践方法について学ぶ。
- 生活の継続の視点に立脚した日常生活に関するケアの実践方法について理解する。
- 家族や地域との関わりについて学ぶ。
- 自立支援・自律的な生活を営むことの支援のあり方、生きがいや役割の創出について学ぶ。
- 尊厳の保持、プライバシー、人権など介護職員として必要な基本的視座を再確認する。

(2) 研修体系全体における本単元の位置づけ

- ユニットケアにおける個別ケアの考え方と実践において必要となる知識を習得する。

(3) 指導の視点

- 個別ケアの重要な視点である生活の継続について説明する。1日の生活リズムに沿って生活の継続の意味について理解する。
- 入居者同士、家族、地域との関係性の構築することの必要性について説明する。
- 入居者の自立や自律を支援し、入居者の意思決定に基づくケアを実践していくことの重要性について説明する。
- 自律を促し、その上で残存機能を活用した役割・生きがいの創出の重要性について説明する。
- 人権や尊厳の保持といった介護職員としての基本的な視座について再確認する。

- プライバシーの確保、拘束の禁止、個人情報の保護など職務を行う上で遭遇する倫理的問題について説明する。

(4) 研修の進め方

- 本課目の指導項目、解説、教材・レジュメ、進行例等を以下に示す。

(5) 評価ポイント

- 本課目修了時の評価ポイントを以下に示す。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 介護職員、ユニットリーダーとして必要な倫理観について理解しているか<input type="checkbox"/> 情報伝達の重要性について理解しているか<input type="checkbox"/> その人らしい生活を実現することの重要性や、それを実現する方法について理解しているか<input type="checkbox"/> 自律や自立を支援する方法について理解しているか<input type="checkbox"/> 入居者の生きがいや役割を創出するケアのあり方について理解しているか<input type="checkbox"/> 入居者の尊厳や介護職員として必要な倫理観についてユニットチーム内での課題を発見し、それに向けた改善策を述べることができる。 |
|---|

研修の進め方（例）

指導項目	概要	小項目	指導内容 キーワード	進め方(例)	指導方針・ ポイント	テキスト 該当 ページ	教材	備考	
(導入) (5分)	・ 学習の目的、目標の確認	---	・ 自律した日常生活 ・ 権利擁護			P83	なし		
ユニットケア における自 律した日常 生活の支援 (30分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自立支援の考え方と、入所者が自律した日常生活を営むことの支援の考え方について学ぶ ・ 個別ケアを実践するためには、入居者とその生活について理解し、個別のニーズに即して生活リズムに沿ったケアの展開が重要であることを理解する ・ 居宅における生活を継続するために、入居時の環境の変化に配慮し新しい生活づくりを支援することが重要であることを学ぶ ・ 入居者の生活習慣や生活リズムに沿って、その人らしい生活を支援するためのポイントを学ぶ 	自立支援の原則	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自立支援 ・ 残存能力 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スライドを用いて自立支援と自律支援の理解を進める ・ 福祉用具の活用により、自立・自律支援がより効果的になることを理解する ・ 自立支援には、個別ケアが基本であることを理解する ・ スライドを用いて情報収集の意義を伝える ・ 居者を知るために入居者の1日の暮らしの情報収集の視点と必要な情報を伝える 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自立支援・自律支援を進めるには、個別ケアが基本であり、その具体的方法として福祉用具の活用等があることを理解する ・ 入居者が暮らしを継続するためにどんな視点が大事か、一日の暮らしを追いながら理解する 	P84	スライド		
		自律的な日常生活を営むことの支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自律 ・ 自己決定 ・ 自己選択 ・ 個別ケア ・ 全人的理解 ・ 情報収集 ・ 観察 			P84	スライド		
		居宅における生活の継続	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境変化 ・ 新しい生活の再構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者施設への入居とその支援の役割を理解する動画やスライドを用いて、入居者に一日の暮らし方とその支援のあり方を確認する 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 入居者それぞれの暮らしを支援することの意義を確認する 	P86	スライド	
		ユニットにおける生活の流れ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活リズム ・ 生活習慣 				P87	スライド 動画等	
ユニットケア における社会的関係の構築 (15分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入所者が自分の意思で意欲的に生活を営むためには、他の入居者や家族、地域との交流を通して社会的関係を維持すること、ユニットの中で役割を持つことが重要であることを学ぶ ・ 生きがいを持つことの重要性やそのための支援の考え方について学ぶ 	社会的関係の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員、入居者、家族、地域との交流 ・ 役割をもつこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スライドを用いて職員、入居者・家族・地域とのかかわりの重要性と事例を説明する ・ 入居者の役割や生きがいの事例を説明し、その役割が重要であることを示す 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的事例に基づき、施設に入居しても社会との関係性を保ち暮らし続けられることの理解とその重要性を理解する 	P91	スライド		
		生きがい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生きがい ・ 自己実現 				P96	スライド	
権利擁護 (20分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ユニットケアにおける権利擁護について学ぶ 	人権侵害の防止	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身体拘束廃止 ・ 虐待防止 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スライドを用いて自己決定の意義やプライバシーを守ることの具体的例を示しながら、ケアのあり方を理解する ・ テキストを用い、身体拘束について 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 権利擁護の重要性を再認識させる ・ ユニットケアの特徴を踏まえた権利擁護の実践方法を知る 	P100	スライド		
		意思決定支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己決定 ・ 代理意思決定 				P102	スライド	
		プライバシー	<ul style="list-style-type: none"> ・ プライバシー保護 				P103	スライド	

指導項目	概要	小項目	指導内容 キーワード	進め方(例)	指導方針・ ポイント	テキスト 該当 ページ	教材	備考
		の保護 インフォーム ド・コンセント	・ 個人情報保の取り扱い ・ 説明と同意	の制度の説明とユニットケアでは身 体拘束を回避できることを説明する		P104	スライド	
まとめ 振り返り (20分)	・ 学習内容の確認	---	---	①課題と手順を説明する ②個人ワーク ③グループワーク ④発表・意見交換 ⑤要点について解説する	・ 「導入」における受講生の 認識への解答、総括 ・ ユニットケアにおける自律 した生活の支援の考え方 を確認する	---	スライド 事例 ワーク シート	

D：ケアのマネジメント

(形式：講義＋演習) (時間：210分)

テキスト P106～P132

到達目標：

- ・ユニットにおけるケアの質向上のための、介護過程のプロセスとリーダーとしての留意点が見える。
- ・介護過程の展開（PDCAサイクル）における、リーダーとしての役割、チームケアのための留意点が見える。
- ・施設サービス計画書（施設ケアプラン）と介護計画の関係、個別ケアの実践を施設ケアプランへ反映することの重要性が理解できる。
- ・医療ニーズ、認知症、看取り、重度化への対応と医療との連携の必要性、課題解決のためのPDCAサイクルが理解できる。

講師要件：講義内容に関する有識者及びファシリテーター能力のある者（豊富な現場経験を有するユニットリーダー経験者及び施設管理者等）

(1) 本単元の目的・ねらい

- 介護過程の展開（PDCAサイクル）を用いたケアの質のマネジメントを行う。個別ケアや自立支援につなげるためのPDCAサイクルの理解とリーダーとしての役割を理解する。チームケアの課題解決、重度化や認知症などの課題解決のPDCAサイクルとリーダーの役割を理解する。

(2) 研修体系全体における本単元の位置づけ

- 他の章で学んだリーダーに必要な基礎的な知識を統合し、ケアの質の向上に必要な介護過程の展開（PDCAサイクル）を理解する。
- PDCAサイクルの考え方を基に、個別ケアの実践、チームケアにおける課題解決の方法を学習する。

(3) 指導の視点・ポイント

- 介護過程のプロセスだけではなく、それぞれの段階でチームケアであること、その中のリーダーの役割について説明する。
- ケアは、「アセスメント→計画の作成→介護の実施→評価→改善・見直し→再アセスメント」といったサイクルであることを再認識するように説明をする。
- 入居者の個別ケアの内容だけではなく、ユニットメンバーをどのように動かすか、指導して行くか等のリーダーの視点で説明をする。
- 実践能力の向上を図るため、演習を強化した内容とする。アクティブラーニングの手法を取り入れた能動的な学習方法とする。

(4) 研修の進め方 (例)

指導項目	概要	小項目	指導内容 キーワード	進め方	指導方針・ ポイント	テキスト 該当 ページ	教材	備考
導入 (5分)	・学習の目的、目標の 確認		・ケアのマネジメント	・ケアのマネジメント(ケアの質の確保、向上)に必要なことについて説明する	・個別ケアであること、質の確保だけでなく、向上していくという点について意識させる	P106	なし	
ユニットケア における介護過程の展開(ケアにおけるPDCAサイクル) (90分)	・介護過程の展開における、それぞれの構成要素の説明、リーダーとしての留意点を学ぶ、また、施設サービス計画書と介護計画の関係について学ぶ	①介護過程の 意義と目的 (5分)	・個別ケア ・介護過程 ・科学的根拠に基づいた介護 ・言語化と記録	① 介護過程とは何かを説明する ② 根拠ある介護であることを確認する ③ 施設という特徴と個別ケアに必要なことについて説明する ④ 実践だけではなく、思考過程も言語化、記録することで根拠を示す、チームケアに活かすことを説明する	・日常的にしている思考過程であることも説明する ・チームケアの視点を入れる	P107	スライド	
		②介護過程におけるPDCA サイクル 講義 (25分)	・介護過程とPDCAサイクル ・アセスメント ・情報収集 ・情報の解釈、関連付け、統合化 ・課題の明確化 ・計画の立案 ・支援と評価 ・介護過程の展開におけるリーダーの役割	① ケアの質の確保・向上のためのサイクルになっていることを図を用いて解説する ② 計画の前にアセスメントがあること、改善と見直しのところで再アセスメントが行われることなど、アセスメントについても補足して説明する ③ 介護過程の展開で一番苦労することについて問いかける ④ アセスメント(情報収集、情報の解釈・関連付け・統合化、計画の立案、課題の明確化)とは何か、リーダーの役割を説明する ⑤ 支援(安全への配慮、計画の継続性、記録、役割分担)をユニットチームで行なう際の留意点の説明。評価と改善と見直しについて説明する。また、記録すべき内容や、支援の留意点については参照するよう言葉をかける ⑥ リーダーの役割①～⑩について説明する	・PCDAサイクルの中でのアセスメント、再アセスメントの位置づけについて必ず補足する ・介護過程の構成要素それぞれの難しさや陥りやすいことについて、実際の例をあげて説明することで、身近なものとしてイメージしやすくする ・介護過程の展開や構成要素の説明のみで終わらず、それぞれの構成要素で、リーダーの視点、役割を入れる ・考える、気づくことの大切さを再認識できるようにする	P108	スライド	

指導項目	概要	小項目	指導内容 キーワード	進め方	指導方針・ ポイント	テキスト 該当 ページ	教材	備考
		演習 (40分)		<p>① グループワーク 情報収集のワーク ICFの「できる活動」について説明する グループワークの方法の説明 例:「できること」を見つける、見つける視点を育てるグループワーク</p> <p>・事例を用いて、「できること」探しを行う。できるだけ、できることをグループ全員で探し出し、生きがいにつながるものについて優先順位の高い物を1つあげる</p> <p>・ユニットメンバーが「できること」をより多く探せる、気づけるようにするには、どのようなことが考えられるかグループでまとめる</p> <p>② グループワークのまとめ 個別ケア、ケアの質、入居者の生活の向上、チームケアに介護過程の展開(PDCA)は欠かせないことを説明</p>	<ul style="list-style-type: none"> グループワークについては、介護過程のどの段階でも可能である。 ポイントは、ユニットメンバーがそれをするためにリーダーとしてどうしたらいいかという視点については必ず入れるようにする。 グループワークの方法、自己紹介、司会等役割の決定の指示 進め方、時間配分の説明をする 	---	スライド	
		③施設サービス計画書(ケアプラン)と介護計画(生活プラン) (5分)	<ul style="list-style-type: none"> 施設サービス計画書 介護計画(日課計画表等) 	<p>① 実際の施設サービス計画等の書類をスライドで示しながら説明する</p> <p>② 介護計画をケアプランに反映させることについて、図で示して説明する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ケアプランという呼び方に注意する(ここでは、ケアマネジャーが作成したものをケアプラン、介護職の作成したものを介護計画と呼ぶ) 	P115	スライド	
		④介護過程に基づくユニットケアの実践 (15分)	<ul style="list-style-type: none"> 介護計画 入居者個々の生活の流れ 入居者個々の生活のリズム 一日の生活の把握 	<p>① 事例を基に、入居者個々の生活の流れや生活のリズムにそったケアについて説明する</p>	<ul style="list-style-type: none"> 介護の必要な場面だけでなく、入居者個々の生活に目を向ける、生活支援の大切さを再認識できるようにする 	P117		

指導項目	概要	小項目	指導内容 キーワード	進め方	指導方針・ ポイント	テキスト 該当 ページ	教材	備考
チームケア、多職種との連携の実践 チームケアの実践 (25分)		講義 (25分)	・多職種連携 ・チームケア ・リーダーの役割	① 2.2.4 チームケアと多職種について振り返り、事例を用いて改善に向かったPDCA、リーダーの役割について説明する ② チームケアの成功事例について隣同士話す	他職場の事例を聞くことによって自職場の改善につなげる 同じ悩みの共有	P119	スライド	ポイントをまとめたスライド
重度化・認知症への対応、看取り介護 (60分)		① 重度化への対応 講義(15分)	・要介護度3以上 ・重度化 ・リーダーの役割	1.3.1 を振り返り、事例を用いて重度化における課題と改善に向かったPDCA、リーダーの担った役割について説明する	リーダーがどの段階で何をしたのかを説明する	P122	スライド 写真	ポイントをまとめたスライド
		② 認知症への対応 講義(15分)	・認知症 ・行動と心理の背景 ・居場所	1.3.1 を振り返り、事例を用いて認知症の入居者への対応、課題と改善に向かったPDCA、リーダーの担った役割について説明する	リーダーがどの段階で何をしたのかを説明する	P125	スライド 写真	ポイントをまとめたスライド
		③ 看取り介護 講義(30分)	・看取り ・看取りの介護体制構築・強化 ・看取り後のカンファレンス	1.3.1 を振り返り、看取り期の支援、施設における看取り介護の体制構築・強化に向けたPDCAサイクルについて説明する。 また、事例を用いて看取りにおける課題と改善に向かったPDCA、リーダーの担った役割について説明する。	リーダーがどの段階で何をしたのかを説明する	P127	スライド 写真	ポイントをまとめたスライド
まとめ 振り返り (30分)	・学習内容の確認			①課題と手順を説明する ②グループワーク 例：自職場で課題となっている事例と、これまでの学びを踏まえ、自分が何をすべきかを個々に発表する	改善すべき内容がわかっていること、ケアチームのリーダーとしての役割が理解できていること	---	スライド	

(5) 評価ポイント

➤ 本課目修了時の評価ポイントを以下に示す。

①介護過程の展開（ケアにおけるPDCAサイクル）

- 学習内容の要点とリーダーの役割を理解することができたか
- 介護過程の意義と目的を理解することができたか
- 介護過程の展開とその構成要素について理解することができたか
- 根拠に基づいた介護について理解することができたか
- ケアマネジメントと介護過程の展開の関連を理解することができたか
- 個別ケアの実践のために必要なこと、ユニットメンバーに対する指導や助言の必要性や方法について理解することができたか
- ユニットチームの質の向上のために介護過程をどのように活用するか、研修に取り入れるかなどが文章化できたか

②チームケア、多職種との連携

- 他の職種の機能と役割やなぜ多職種連携（チームアプローチ）が必要なのか、その意義と目的を理解することができる。

③重度化・認知症への対応、看取り介護

- 医療ニーズの高い入居者の生活を支援するために、介護職にはどのような役割があるのか、またユニットリーダーの役割について理解することができたか
- 認知症の入居者への対応と課題、リーダーの役割について理解することができたか
- BPSDへの対応としてユニットケアはどのような取組が求められるのか理解することができたか
- 看取り期に必要とされる支援について理解できたか
- 看取り期におけるユニットリーダーの役割について理解できたか

E：ユニットのマネジメント

(形式：講義、演習、グループワーク) (時間：210分)

テキスト P133～P169

到達目標：

- ・ ユニットのマネジメントの実践に関する知識及び技能を習得する。
- ・ ユニットでの指導、教育、相談、支援ができる能力を習得する。

講師要件：講義内容に関する有識者及びファシリテーター能力のある者（豊富な現場経験を有するユニットリーダー経験者及び施設管理者等）

(1) 本単元の目的・ねらい

- チームリーダーとして必要なユニット運営（ユニットのマネジメント）に関する知識及び技能を習得する。

(2) 研修体系全体における本単元の位置づけ

- 第2章のユニットリーダーの役割を具現化させ、ユニットをマネジメントする能力を育成する。
- ユニット型施設の特性を踏まえたマネジメントの在り方について「人的資源、物的資源、財的資源、情報」という観点から学ぶ。

(3) 指導の視点・ポイント

- 組織の中におけるユニットリーダーの役割について説明する。
- ユニット運営における課題形成と課題解決アプローチ（PDCAサイクル）の方法について説明する。
- 職員教育、効果的な研修の理解、職員相談支援の在り方について説明する
- ユニットにおけるリスクマネジメントについて説明する。

(4) 研修の進め方（例）

指導項目	概要	小項目	指導内容 キーワード	進め方	指導方針・ ポイント	テキスト 該当 ページ	教材	備考
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> 学習の目的、目標の確認 		<ul style="list-style-type: none"> ユニットのマネジメント 	<ul style="list-style-type: none"> 本章の学習目標と到達点について説明する 関連のある章についての振り返りを簡略的に行う 	<ul style="list-style-type: none"> 本章の学習目標と到達点について詳細に説明する 関連のある章の内容を簡単に振り返る 	P133	なし	
ユニットのマネジメントの考え方 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ユニットのマネジメントという概念について学ぶ 各職種におけるマネジメントの範囲について理解する ユニットリーダーが担うべきマネジメントの内容について理解する 	講義 (10分)	ユニットリーダーが実践すべきユニットのマネジメントについて、マネジメントの実施内容や対象を説明する	<ul style="list-style-type: none"> ユニットのマネジメントとはどのようなものであるかについて説明する ユニットリーダーがマネジメントすべき対象について説明する 	<ul style="list-style-type: none"> ユニットのマネジメントについて解説する ユニットのマネジメントの範囲を、経験を通して知る 	P134	スライド	
人的資源に対するマネジメント (75分)	<ul style="list-style-type: none"> ユニットリーダーが担う人的資源に関するマネジメントについて学習する 勤務シフトの調整、職員教育、職員に対する相談援助の方法について理解する 	講義 (15分) 演習 (15分)	職員の配置と勤務シフトの調整	<ul style="list-style-type: none"> 個別ケアの実践と勤務シフトの関係性について説明する 勤務シフトの調整が必要なケアの具体例を説明する 勤務シフトの仕組みを説明する 	<ul style="list-style-type: none"> 具体例を挙げて実践に即した説明を行う 受講生が自施設の仕組みを理論的に説明できるようにする 	P136	スライド 演習教材	
		講義 (15分) 演習 (15分)	職員教育	<ul style="list-style-type: none"> 良質で最善なサービス提供をするためのユニットメンバーの教育の在り方について説明する 職員教育についての実践応力を育成する 	<ul style="list-style-type: none"> 新人教育、自己学習を分けて説明する。 具体例を用いて実践的な説明を行う 演習等を用いて各施設の教育方法について話し合う 	P138	スライド 演習教材	
		講義 (15分)	ユニット職員に対する相談・支援	<ul style="list-style-type: none"> ユニット職員からの相談に対する接し方を学ぶ モチベーション管理における職場環境づくり メンタルヘルス、ストレスマネジメントにおけるセルフケアの重要性 	<ul style="list-style-type: none"> 重要なポイントを強調して説明する 	P141	スライド	

指導項目	概要	小項目	指導内容 キーワード	進め方	指導方針・ ポイント	テキスト 該当 ページ	教材	備考
物的資源と財 的資源のマネ ジメント (50分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニットの環境整備の重要性及びその手法について学ぶ ・ユニット費が導入されている背景および、その活用方法について学ぶ 	講義 (15分) 演習 (15分)	物的資源のマネジ メント	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニットのしつらえの重要性について理解する ・ユニットの環境を整備する方法について学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・映像等の視覚的教材を活用して説明する ・演習等をつうじて環境の重要性を理解させる 	P146	スライド 演習教材	
		講義 (20分)	財的資源のマネジ メント	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の収支構造について確認する ・ユニット費運用の考え方について 	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニット費が導入されている背景要因について説明する ・ユニット費の活用事例など具体例を用いて説明する 	P152	スライド	
情報活用に関 するマネジメン ト (40分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニットケアにおける情報の質の違いについて学ぶ ・記録の活用方法について学ぶ ・情報の共有方法について学ぶ 	講義 (20分)	記録の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・介護単位の小規模化による情報の効率化についての理解を深める ・情報の種類およびその活用方法について学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護単位の小規模化に伴う情報の質の変化を理論的に説明する ・情報の種類と活用方法について説明する 	P156	スライド	
		講義 (20分)	情報の共有	<ul style="list-style-type: none"> ・申し送りや会議の意味を再確認する 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報共有の効率化について具体例を用いて説明する 	P157	スライド	
リスクマネジメ ント (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニットにおけるリスクについて理解する ・事故予防について学習する ・事故発生後の対応について学ぶ 	講義 (10分)	事故予防、事故発生 後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・事故を予防する際の留意点について学ぶ ・事故が発生した場合の対応について学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な事例をもとにリスクマネジメントの重要性について説明する 	P160	スライド	
まとめ 振り返り (20分)	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容の確認 			<ul style="list-style-type: none"> ・課題と手順を説明する ・グループワーク ・発表、意見交換 ・要点についての解説 	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニットのマネジメントの章にて学習した内容を各グループ毎にまとめ発表する 	---	スライド 演習資料	

(5) 評価ポイント

➤ 本課目修了時の評価ポイントを以下に示す。

- 組織の中で、ユニット運営マネジメントの手法としてのPDCAサイクル理解ができたか。
- 人材資源に関する理解と自施設の課題整理ができたか。
- 物的資源と財的資源に関する理解と自施設の課題整理ができたか。
- 情報の活用とリスクマネジメントに関する理解と自施設の課題整理ができたか。

<参考：ワークシート>

1 人的資源に関するグループワーク

■グループワークの目標

各施設におけるシフトの組み方（または、人材教育）について議論し、自施設の課題を理解する。

■グループワークの手順（シフトの組み方の場合）

手順1：4人～6人程度のグループを構成。

手順2：グループ毎に各施設におけるユニットのシフトの構成と特徴を説明。事前課題等について自施設のシフトの構成が分かる資料を作成してもらう（A3シートにシフトの構成と特徴を記載する事前シートを配布するなど）。

※人材育成の場合には、自施設の教育方法の特徴を記載してもらい、発表する（A3サイズ程度のホワイトボードが各人にあると意見交換が行いやすい）

手順3：各グループの司会を中心に各施設の強み（ストレングス）を整理する。グループで強みについて意見交換や質疑応答を行う。

手順4：自施設の課題を整理し、メモを取る（箇条書きでよい）。

■グループワークの留意点

- ・手順に沿ったワークシートを事前に作成し、議論が円滑に進むように工夫する。
- ・議論が雑談にならないように、手順ごとの時間を決めて、全体を誘導する。
- ・グループワークの最中には、各グループを周り、意見を引き出す。
- ・一つの答えを導くのではなく、様々な仕組みや工夫を理解し、自発的に自施設の課題を見つける事ができるように誘導する。

2. 物的資源に関するグループワーク

■グループワークの目標

ユニットの共用空間をしつらえる事の重要性について理解する。さらに、環境を改善していく視点について学ぶ。

■グループワークの手順

手順1：4人～6人程度のグループを構成

手順2：事前に用意されたユニットの食堂と居間の写真を2枚ずつ程度とる。各写真を見て良い点、悪い点を考える。PEAPの表を確認しながら作業するように説明する。

※事務局が環境整備の良い事例6枚程度と悪い事例6枚程度を事前に用意する。写真はA4程度に拡大して印刷しておく。(各グループの写真は同じでよい)

手順3：グループで各写真の良い点、悪い点を発表し、補足があればその都度、指摘する。

手順4：自施設の食堂と居間の写真を見返し、改善点を箇条書きで列挙する。

※事前資料として自施設のユニットの食堂や居間の写真を2枚程度撮影し、資料に掲載しておく。

■グループワークの留意点

- ・ユニットのしつらえとして良い事例、悪い事例を撮影した写真を事前に10枚以上用意しておく。
- ・グループワークの最中には、各グループの進捗状況を確認し、スムーズに進んでいない場合には、PEAPの視点などを紹介しながら、イメージが形成されやすいように誘導する。
- ・様々な仕組みや工夫を理解し、自発的に自施設の課題を見つける事ができるように誘導する。
- ・グループワークの最後に、事前に用意された写真のポイントなどを解説してもよい。

3. まとめ、振り返りのグループワーク

■グループワークの目標

ユニットのマネジメントとして学習した内容(人的、物的、財的資源、情報の活用、リスクマネジメント)について振り返り、学習内容についての理解を深める。

■グループワークの手順

手順1：4人～6人程度のグループを構成。

手順2：人的資源、物的資源、財的資源、情報の活用、リスクマネジメントの5項目の中から各班で1つの項目を選ぶ。

手順3：模造紙を用いて、各単元で学習した内容をグループ毎にまとめる。

手順4：発表者を選び、班ごとに説明してもらう。

■グループワークの留意点

- ・模造紙とマジックを用意し、学習内容を視覚的にまとめる事ができるようにする。
- ・選択項目が重ならないようにファシリテーターがコーディネートする。
- ・発表時には、ファシリテーターが補足し、重要な項目について繰り返し説明するようにする。

F：実践課題演習

(形式：講義・演習) (施設における実践 2 週間～ 4 週間) (プレゼンテーション+質疑応答 1 日)

- 到達目標：
- ・ 自施設におけるケアのマネジメント・ユニットのマネジメントのための P D C A サイクルを展開するための課題設定と計画立案を行う。
 - ・ 作成した計画に基づき、施設で実践を行い、気づきを得る。
 - ・ 得られた結果を発表し、意見交換を通して、自施設を客観的にとらえるとともに、多施設の取組について学ぶ。

講師要件：講義内容に関する有識者及びファシリテーター能力のある者（豊富な現場経験を有するユニットリーダー経験者及び施設管理者等）

(1) 本単元の目的・ねらい

- 実践において、学習した知識及び技能を統合させ、ユニットリーダーとしてユニットケアを展開し、ユニットを運営することを学習する。

(2) 研修体系全体における本単元の位置づけ

- 集合研修で学んだ内容を総括し、施設での実践につなげる。
- 施設における課題の発見、解決策の検討、実施、評価までの一連の活動を通して、ユニットリーダーに求められる技術を総合的に学ぶ。
- 学習内容のポイントを再確認したうえで、受講生が自施設で円滑に実践課題に取り組み、遂行できるようにするための方法を伝達する。

(3) 指導の視点

- 実践課題の目的と意義を理解させたうえで、効果的、効率的な進め方を説明する。
- アクティブラーニングの手法を取り入れた能動的な学習方法を取り入れ、受講生の主体的な参加を促し、実践、振り返り、他者との関わりを通して意識の向上を図る。

(4) 研修の進め方（例）

➤ 本課目の指導項目、解説、教材・レジュメ等を以下に示す。

指導項目	解説	教材・レジュメ
① 集合研修の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3日間の研修を総括する演習を行い、学習内容を再確認する。 ・ 集合研修の学習内容を実践課題に結びつける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返りシート ・ W. S. 資料 模造紙等
実践課題の設定と施設における実践課題の実施計画作成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実践課題の進め方と効果的な実践のためのポイントを説明する。 ・ 想定する実践課題の実施計画を作成する。 ・ 実践期間中のサポート体制について説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> 実践課題の進め方資料 実践課題計画シート 記録シート 実践課題参考事例等
② 施設における実践課題の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修実施機関において、受講生が自施設で実践課題の遂行する際の不明点や疑問などに対応する。 ・ 必要に応じて、管理者等との調整を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 問い合わせ対応用のQ & A等
③ プレゼンテーション（集合研修）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各施設における実践の結果を持ち寄り報告し、意見交換する。 ・ 自身の取組を客観的に振り返り、他の取組事例や他者からの助言による気づきを得る。 ・ 発表やコミュニケーション、他者からのフィードバックを通して、自信、達成感、モチベーションの向上につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> 報告用パネル 意見交換用シート メッセージ交換用シート

(5) 進行例

➤ 本課目を実施する際の進行例を以下に示す。

①実践課題の設定と施設における実践課題の実施計画作成

指導項目	進め方（例）	指導方針・ポイント	教材
集合兼研修の振り返り （20分）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義ごとに記入してきた振り返りシートを見直し、修正を加える。 ・ 振り返りシートの項目ごとに班分けを行い、各班にて各項目の内容を完成させる。 ・ 各項目について発表を行う。内容が不足している場合には講師が補足する。 	講義ごとに振り返りシートに学んだ内容を記入させる。	スライド 振り返りシート
実践課題の進め方 （10分）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実践課題の進め方と留意点、効果的に進めるポイントなどを伝える。 例： 管理者と協議し支援を得ること 関係者に働きかけ、協力体制を整えること 学習内容を意識して実践すること 計画に則りつつ臨機応変に対応すること など ・ 実践課題の進め方について質問がないかを確認する。 	施設における実施体制づくりの重要性を伝える。	スライド
実践課題の計画 （25分）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設における実践課題のテーマ案、およそのスケジュールの検討の方法を説明する。 ・ 受講者は、計画シートを用いて、計画の概略を検討する。 	計画の概略を検討し、進め方、自分がやるべきことが具体的にイメージできるようにする。	スライド 計画シート
計画のチェック （25分）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相互に計画内容の説明を行う。説明を受ける側の視点からのアドバイスを行う。 例： 計画目的が明確になっているか 実施体制が明確になっているか 目的に対する手段が適切か 	作成した計画について客観的な視点から妥当性を確認し、実効性の高い計画へと修正する。 他者の実施計画を聞くことで、気づきを得る。	

指導項目	進め方（例）	指導方針・ポイント	教材
	スケジュールは現実的か など <ul style="list-style-type: none"> 受講者は2人1組で、相互レビューする。計画案を説明し、不明な点の確認、助言などを相互に行う。 講師・ファシリテータは、受講者からの質問に対応したり、相互レビューの状況を見て、適切なレビューが行われるように声をかける。 		
まとめ（10分）	<ul style="list-style-type: none"> 実践課題の遂行と提出のスケジュール、サポート体制などについて説明する。 	実施機関によるサポートが得られることを伝える。	

②施設における実践課題の実施

<指導方法>

- ・ 受講生が自施設において実践課題を実施
- ・ 研修実施機関における問い合わせ、相談等への対応
- ・ 必要に応じて、施設管理者等との調整 など

<指導方針>

- ・ 個々の環境の中で可能な範囲で最大の効果が得られるよう配慮する

<スケジュール例>

第一週		第二～三週			第四週	
準備	ミーティング1			実践	ミーティング2	
周回への説明体制づくりなど	事例の選定	ケアプラン・介護計画・生活記録等のチェック	対応とケアの改善策の検討	ケアプラン介護計画の見直し	ケアの実践（約2週間）	振り返り
施設長・ユニットのメンバー等に実践課題について説明し、理解と協力を得る	ユニットで改善に取り組みたい事例を選定	選定した事例について、観察を行い、記録や計画などをチェックし、現状の課題を把握	課題を解決するための対応やケアの改善策を検討	対応や改善策を実践するためにケアプランや介護計画を見直し	見直したケアプランや介護計画に基づいて、ケアを実践	ケアの改善状況や実践課題の取り組みの評価
		C	A	P	D	C

③プレゼンテーション（集合研修）

プログラム	指導の具体的方法	指導の方針	教材
挨拶・説明など（5分）	<ul style="list-style-type: none"> 研修の目標、要点、研修の進め方について説明する。 	—	
実践結果報告（60分）	<ul style="list-style-type: none"> 受講者が実践課題の取組内容について、発表する。（1人あたり5分程度を想定、適切な人数でグループを編成し、グループごとに進行） 受講者は5分程度で、取り組んだ課題、ケアの改善策の紹介、1日の介護計画、ケアプランの変更点、ケアの改善、実施結果、振り返り等について報告する。 	<ul style="list-style-type: none"> 取組の要点をまとめて、自分の言葉でわかりやすく伝えるための工夫を促す。 他者の取組内容から学ぶことを意識付ける。 	
講師・ファシリテーターによる質疑のデモンストレーション（45分）	<ul style="list-style-type: none"> 代表例3件程度を選出する。 選出された事例について、受講者による説明（5分）に対し、講師・ファシリテーターから質問、感想を述べ、質疑のデモンストレーション（10分）を実施する。 質問の視点やコメントの仕方を伝達する。 質問の視点やコメントの仕方について質問がないかを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 取組の背景や状況、要点、効果等を明確にする質問をする。 肯定的なフィードバックによりモチベーション向上を図る。 	
受講者相互での評価・コメント（60分）	<ul style="list-style-type: none"> 4つのセッションに分割（1セッション15分程度）。 発表者数名に対して、他の受講者から自由に質疑応答する。 講師・ファシリテーターも参加し、必要に応じて、視点を与えたり、議論の整理をする。 受講者は、関心のある発表者に対して、質疑応答や意見交換を行う。他者による質疑内容からも、多様な捉え方を学ぶ。 受講者は、コメントシートに記入し、発表者に渡す。 	<ul style="list-style-type: none"> 発言の偏りがなく、活発な議論になるように導く。 受講者間のコミュニケーションを促進するように配慮する。 	
総括（15分）	<ul style="list-style-type: none"> 発表内容、質疑の内容に対して、総括、講評する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容を再確認し、定着させる。 	

(6) 評価ポイント

➤ 本課目修了時の評価ポイントを以下に示す。

①実践課題の設定と施設における実践課題の実施計画作成

- 学習内容の要点とリーダーの役割を理解することができたか。
- 実践課題の目的、意義、進め方のポイントを理解することができたか。
- 自施設の課題に即したケアのマネジメント・ユニットのマネジメントのためのP D C Aサイクルを展開するための課題設定と、適切かつ実現性の高い計画立案を行うことができたか。

②施設における実践課題の実施

- 管理者等の協力や周囲の理解を得て、実施体制を組むことができたか。
- 課題に対して、適切な対策を検討し実践することができたか。
- 課題の実践を通して、ユニットリーダーとしての「ケアのマネジメント」「ユニットのマネジメント」の具体的な進め方や重要な点を確認することができたか。